

かいほ

ジャーナル

Japan Coast Guard Journal

[海上保安庁情報誌]



【特集】

離島の生活を守る 隠岐海上保安署

52

2012 Autumn

海上保安庁

JAPAN COAST GUARD

特集

離島の生活を守る 隠岐海上保安署

4

グラビア

第2回アジア海上保安初級幹部研修開講
～ベトナムの研修生が初参加～

1

観閲式及び総合訓練～2年ぶりの開催～

1

内閣総理大臣の第十一管区海上保安本部視察

2

第11回 日露海上警備機関長官級会合

2

機動防除隊 出動件数が300件に

3

海上保安庁音楽隊サマーコンサート

3



那久崎灯台



島後 西郷港
フェリーターミナルの妖怪オブジェ



本州とを結ぶ高速船レインボー2

トピックス

平成24年海上保安庁118番イメージモデル
杉 良太郎さんを
一日第五管区海上保安本部長に任命

10

海上保安庁音楽隊 第19回定期演奏会のお知らせ

11

NEWS FLASH ニュースフラッシュ

12

インフォメーション
大切な命!自分で守る～海上保安庁からのお願い～

裏表紙

第2回アジア海上保安初級幹部研修開講 ～ベトナムの研修生が初参加～



5月7日、海上保安大学校（広島県呉市）で「第2回アジア海上保安初級幹部研修」の開講式が行われました。この研修は、アジア諸国の海上保安機関の人材育成のため、海上保安庁と日本財団及び（財）海上保安協会が協力して昨年度から実施しています。今年にはベトナム、インドネシア、マレーシア、フィリピン、日本の5カ国計9名の研修生が、講義や業務見学を通じて、来年3月まで海上保安業務に関する能力の向上を図ります。



観閲式及び総合訓練～2年ぶりの開催～

6月2・3日、東京湾羽田沖において観閲式及び総合訓練を行いました。全国各地から集結した巡視船艇、航空機に加えて、米国防空軍の航空機や、関係機関の船艇・航空機も参加して、日頃の訓練の成果を披露

しました。昨年度は東日本大震災への対応のため中止となり、2年ぶりの開催となりましたが、約7,500名の招待者や一般公募者など多くの方にご覧いただきました。



内閣総理大臣の 第十一管区海上保安本部視察



6月23日、野田内閣総理大臣が第十一管区海上保安本部及び巡視船「りゅうきゅう」を視察しました。現職の内閣総理大臣が管区本部や現場の巡視船を視察するのは初めてのことです。

野田総理は、業務概要説明を受けた後、巡視船「りゅうきゅう」の船内や搭載ヘリコプターなどを視察され、飛行甲板において現場職員に対する激励を行いました。

第11回 日露海上警備機関長官級会合



6月20日、本庁において鈴木海上保安庁長官とプロニチエフロシア連邦保安庁国境警備局長官による「日露海上警備機関長官級会合」が行われました。これまでの二国間、多国間の協力関係を高く評価すると共に、今

後も両国間の海域秩序を維持し、良好な関係を発展していくことで意見が一致しました。ロシア側一行は21日に横浜海上防災基地を視察し、翌22日には両国長官が揃って石狩湾で実施された日露合同訓練を視察しました。



機動防除隊 出動件数が300件に

6月28日、機動防除隊は海上へのアスファルト流出事案へ出動し、平成7年の発足以来、出動件数が300件に達しました。

機動防除隊は海上に排出された油・有害物質などの防除措置や、海上火災への指導、助言を行い、必要に応じて自らも防除措置を行う海上防災の専門集団で、横浜海上防災基地内の機動防除基地を拠点に、総勢18名体制で業務に当たっています。



海上保安庁音楽隊サマーコンサート

7月25日、海上保安庁音楽隊は、日比谷公園小音楽堂においてサマーコンサートを行いました。

コンサートでは、夏の時期に増加する海での事故を防止するための呼びかけや、海上保安大 学校、海上保安学校の学生募集も行いました。

当日は気温30度を超える真夏日にもかかわらず多くの方々にご来場いただき、音楽隊の演奏を楽しんでいただきました。



【特集】

離島の生活を守る 隠岐海上保安署

島根県沖約44kmに浮かぶ隠岐諸島。

日に数便の飛行機と船舶で本土と結ばれるこの離島は、付近を外国船籍の船舶が通航する航路に挟まれ、静かな島の生活と領海警備が混在する地域だ。その隠岐諸島を守っているのが第八管区海上保安本部境海上保安部の隠岐海上保安署だ。

人々の生活と領海を守る、保安署員5名と乗組員16名の巡視船「さんべ」の日常をレポートする。

取材／中島 敦(オンライン)



左より村田潔署長、薄道雄次長、安部昇警務官、船越武史官。隠岐海上保安署前にて。

島根半島の沖約44kmに位置する隠岐諸島は、島前(とうぜん)と呼ばれる3つの島と、島後(とうご)と呼ばれる一つの島の4島を中心とする、日本海に浮かぶ島々だ。人口は2万2000人弱(平成22年国勢調査)、本州とはフェリーや高速船、それに1日に2便の飛行機で結ばれている。また北西約157kmに位置する竹島は、隠岐の島町の一部である。

隠岐諸島は大山隠岐国立公園に指定されている風光明媚な土地ではあるが、島後直行の高速船で1時間10分、フェリーでは2時間20分と本州からの距離は遠い。新聞や郵便物の到着が昼時になるのも離島ゆえのこと。また荒天が長期化するれば、生活物資が不足する可能性もある。

そんな隠岐の海を守るのが第八管区海上保安本部、境海上保安部に所属する隠岐海上保安署だ。島後(隠岐の島町)、西郷港に拠点を構え、巡視船「さんべ」が配備されている。昭和28年1月1日に境海上保安部西郷分室としてスタートし、昭和30年3月1日には西郷警備救難署、同8月10日に西郷海上保安署へと変遷してきた。現在の名称に変更されたのは平成17年4月1日のことだ。

小人数体制ですべてに対応

隠岐海上保安署は、村田潔署長以下、5名の署員が在籍している。また巡視船「さんべ」には計16名の乗組員が配属されている。

地元出身の村田署長は「ここは普段、何も無い静かな島です」と前置きした上で、主な業務として領海警備、治安の確保、人命救助、海洋環境

本州から北へ44km、日本海に浮かぶ隠岐諸島

隠岐諸島は島根半島の北約44kmに位置し、西ノ島、中ノ島、知夫里島からなる島前と島後（隠岐の島町）からなる。本土とはフェリーや高速船、そして飛行機で結ばれている。大山隠岐国立公園に指定されており、特異な地質から世界ジオパーク認定申請中だ。比較的温暖な気候ではあるが冬の波は高く、また積雪もある。有名な景観としては隠岐の島町北西部のローソク島。夕陽がちょうどローソクの火のように巨岩の頂点を照らす姿は圧巻だ。また、まるで巨大な爬虫類が壁に張り付いているような全長26mのトカゲ岩や、隠岐最高峰の大満寺山の乳房杉など見所は多い。国の重要文化財である水若酢神社や古くからの漁村の風景を伝える都万の船小屋、あるいは伝統行事の牛突き、そして近年では島内を100km走破する隠岐の島ウルトラマラソンといったイベントも積極的に開催されている。（写真提供：隠岐の島町役場）



島後（隠岐の島町）



の保全、そして災害対応を挙げる。隠岐諸島は韓国、北朝鮮、そしてロシアと近接しており、また多数の外国船舶が往来する航路筋にも接していることから、航行船舶の監視警戒は重要な任務だ。特に荒天時には外国船が避難してくることもしばしばで、その際には停泊する船舶の監視を続けなければならない。今年1月6日、北朝鮮の漁船がエンジントラブルで漂流し隠岐の島町那久岬沖で発見された時には、陸上からの監視と付近の海岸の調査、発見者からの事情聴取などを実施した。ちょうど仕事始め、地元消防なども出初め式を行っていた最中の出来事であり、マスコミも多数押し寄せ静かな島は時騒然となったが、警察や関係機関と共に住民の不安を取り除こうと情報提供を行うなどの対応をしている。

このような突発的な事案対応はもちろんのこと、隠岐海上保安署では島への玄関口となるフェリーへの海上保安官の同乗や舷門警戒、観光遊覧船に対する指導、密漁取締りなどを日常的に実施している。

人命救助に目を向けると、近年、死亡者を伴う船舶海難こそ発生していないものの、小型船舶の衝突や乗り揚げ、転覆海難が発生したり、漁船員の海中転落や出漁中の発病、一般島民の海中転落事故など、さまざまな事故に対応している。平成23年6月14日には、観光遊覧船「第八しらしま」が観光名所でもあるローソク島からの帰港途中に暗礁に乗り揚げる事故が発生した。乗客乗員52名は別の遊覧船により無事救助されたが、船体は曳航中に重栖港岸壁近辺で沈没し、燃料油が流出したため、これを官民関係者により処理している。

「さんべ」のしゅつ戒に同行

海上での活動は巡視船「さんべ」によって行われる。小さな島とは言え、隠岐諸島の海岸線延長は468kmにも達する。広い海上だけでなく、沿岸部を隈なく監視したり、行き来する漁船や遊覧船などに気を配る任務だ。

今回、「さんべ」のしゅつ戒活動に同乗して取材を行った。180トン型巡視船の「さんべ」は全長46メートル、総トン数195トン。西郷港を出港し湾を出てすぐ東に位置する塩浜海水浴場を沖合から監視。この日は平日だったこともあり海水浴客は少なく、ほとんど針路を西へと取ると、西ノ島、中ノ島、知夫里島からなる島前へと向かった。

夏場はベタ風のこと多いと言われる日本海だが、湾を出ると1〜2メートルの波に船体が上下する。右側の島後沿岸部や左側の洋上を注視しながら進み、ほどなく島前へ。景勝地でもある三郎岩を横目に西ノ島と中ノ島の間を進み、途中、プレジャーボートに声をかける。搭載艇を降ろしてプレジャーボートへと向い、法定書類の確認や安全指導を行った。この間、巡視船は離れた位置に停泊、待機する。

停泊している巡視船の姿を認め、こちらから注意される前に慌ててライフジャケットを装着する漁師達。こういった人々の啓発も重要な役割だ。

島前の浦郷湾は、3つの島に囲まれ波も穏やかなため、冬場、荒天時にはしばしば外国船籍の船が避難し停泊する。「そういうときは我々も巡視船を付近に停泊させて監視を続けます」と説明するのは海老江喬船長だ。穏やかで静かな



巡視船を進めながら、船橋から海上や沿岸部に隈なく視線を送る。



巡視中、浦郷湾付近でプレジャーボートと遭遇。本船から搭載艇を降ろしてプレジャーボートに向い、法定書類の確認や安全への声掛けを行う。搭載艇には探証用カメラなどの機材が持ち込まれる。たも網は船上で相手と書類などをやりとりする際に用いる。

隠岐の島だが、わずかな距離で隣国と接していることを実感させられる。

予定のコースを巡回し、巡視船は西郷港に戻る。「さんべ」は隠岐諸島に常駐する唯一の巡視船であり、通常数日にわたるよう戒活動を行う。また、最近ではヘリコプターの活用が増えたものの、荒天でヘリコプターが飛べない場合などは、島の医療施設では対応できない急患を輸送することも。離島だけに、多様な面で地元の安全に深く関わっていることが窺えた。

地域密着で守る離島の海

狭いエリアであるだけに、隠岐海上保安署の活動も地域と密着している。海難防止活動として講習会を開催したり、子供用救命胴衣を無料で貸し出したり、あるいはロープで自作できるライフブイの普及推進にも努めている。青い海を守るために地元小学校で環境保全出前講座を開催し、環境図画コンクールを実施し、その作品を使ったオリジナルカレンダーを作成するなど、その活動は実にきめ細かい。

災害への備えとしては、隠岐諸島には石油コンビナートなどの大規模施設はないものの、各港に発電所や船舶自動車、生活暖房用の油タンクが設置されており、西郷港には年間約80隻の内航タンカーが入り出している。このため「西郷港排出油等防除協議会」を組織して、港の災害防止に備えている。この西郷港には約140×20メートルのメガフロートが設置されているが、災害発生時には物資輸送の拠点となる。

小規模であるだけに、ひとりひとりの幅広い対応が求められる隠岐海上保安署。日本海に囲まれた離島の美しい海と、海上の安全は彼らの日々弛みない努力によって守られている。



巡視船の横を航行するフェリー。狭い海域をフェリーや漁船、プレジャーボートが行き交う島の風景だ。

巡視船「さんべ」より西ノ島の浦郷湾内を眺める。冬場、天候が荒れた際には荒天避難のため、この湾内に停泊する外国船籍の船も多く、その場合には「さんべ」から船の動きを監視することになる。





巡視船「さんべ」の乗組員一同。海老江喬船長ほか経験豊富な海上保安官により若き海上保安官は育てられている。

【特集】 離島の生活を守る 隠岐海上保安署

船内の食事風景。味もボリュームも申し分なし。当然のことながら乗組員は交代で食事をする。



子供用ライフジャケット無料貸し出しやライフラダーの紹介も

海洋環境保全教室

平成24年7月4日、隠岐の島町有木小学校4年生を対象に、海洋環境保全教室を実施した。学校付近の川の水、調味料等を薄めた液体のCOD検査・PH試験、廃油石けん作りを通じて、生活排水の影響や対処方法等について紹介した。興味津々の児童らは、廃油から石けんができることに驚き、目を輝かせていた。なお、学校付近の有木川のCOD（化学的酸素要求量）は、ほぼゼロであった。



地元での体験航海や海洋環境保全教室、職場体験学習など、地元と密着した活動を続けている隠岐海上保安署だが、この他にも直接役に立つアイテムを用意している。海上保安協会隠岐支部と協力して、海辺で楽しく遊ぶための子供用救命胴衣の無料貸し出しはそのひとつ。まずは実際に使ってもらうことで、救命胴衣の必要性を実感してもらい、結果的に装着率の増加に繋がるのが期待される。また、小型船に乗る人を対象に、簡単に作製できるライフラダー（縄ぼしご）の作り方も紹介している。万が一、海に落ちてしまった際、船や岸壁に上がるのは非常に困難だが、ライフラダーがあれば簡単に海から上がることができるのだ。



職場体験学習

平成23年11月11日、地元の隠岐水産高等学校からの依頼により職場体験学習に協力した。参加した生徒は巡視船さんべにも乗船。海上保安業務の説明や質疑応答、職員との懇談が行われた。生徒は年齢の近い若手職員に入庁の動機ややりがい、業務上大変なことなど、積極的に質問していた。

「さんべ」を支える若き海上保安官

人を助けて役立つ仕事 救難業務に就きたい

下村達也 (21) ■航海士補



人命救助の現場をめざし「海猿になりたい」と語る下村航海士補。厳しい訓練も明るい笑顔で乗り切れる！

小学校4年生のとき、NHKで当庁の特集を放送したのです。それを見てすごく憧れを持って、海上保安庁に入りたいと思ったのがこの仕事に就いたきっかけです。海上保安学校を卒業して、去年の3月から「さんべ」に乗船しています。境港市出身で、隠岐は近いのに一度も行ったことがなかったのですが、住んでみれば意外と住みやすいですね。コンビニはありませんが(笑)、島の人々はとても温かい。都会では体験できないような自然の中で遊ぶこともできますし、私自身は釣りを楽しんでいます。最近ではテニスをしたり、プールで泳いだりも。

これまであまり長い時間続けて船に乗ったことがなかったので、最初は食事にしても大変でした。特に冬場は時化でときどき酔いしたり。陸と違ってすべてを揺れる中でやらなきゃいけませんからね。

反面、遠洋で領海警備の仕事をしたときは、自分がやっていることの実感も湧いたし、すごくやりがいを感じた部分もあります。また、濃霧で帰って来られなくなった人を捜索して見つけたときはすごく嬉しかったし、何よりホッとしました。島後の方だったのですが、霧が深かったので最初はレーダーに反応があり、もしかしたらと近づいていたら、ちょうど船のようなものが見つかった。仕事を始めて数ヶ月のときです。

人を助けて役立つ仕事をしたいので、救難業務に就きたいと考えていますが、まだ決断できていません。中途半端な気持ちではできない業務なので、まだ迷っています。日々のトレーニングもまだまだ全然足りないの、もっとストイックにならないといけないと思っています。

「さんべ」で幅広い経験を 積んでいきたい

本坂 開 (22) ■航海士補

昨年海上保安学校を卒業し、10月から「さんべ」に乗船しています。大変だったことは色々ありますが、最初は船酔いでした。10月はドックで修理だったので、本格的に乗船したのが(冬の間は荒れてくる)11月からだったのです。業務によっては遠洋に行ったりもしていますが、最初は船酔いするのが嫌で嫌で仕方なかった。さすがに今はだいぶ海も落ち着いてきたし船にも慣れてきましたけれどね。

「さんべ」に乗りたいというのは自分の希望でした。幅広く経験を積んで色々なことが出来るようになりたかったのがPS型巡視船「さんべ」を希望した理由です。実際に乗船してみても、やはり仕事の幅は広いですね。それに、この船に乗って本当に恵まれたなと思っています。この船で、まずは普通の海上保安官として一人前にならないと。

印象的なのは1月の北朝鮮からの遭難漂流船の事案です。まずは陸上から状況を把握しろということで那久岬というところから見張ったのですが、最初は4名で行き、そこから2名先に帰って、私ともう1名でずっと丘の上から見張っていました。もししたら誰か上陸するかもしれないで、写真撮影しながら警察の人とずっと話をしていました。巡視船が来て移動させたりするのをずっと見守りながら撮影していたのですが、風の強い中、昼頃からずっと見張っていて本当に寒かったです。

いろいろとマスコミの方も多くて、初めてマスコミ対応というものをしましたが、普段はとても静かな所なので、余計に印象的でした。



「トイレは自分の大切な仕事場所。みんなが気持ちよく使えるようにいつも掃除しています」と本坂航海士補。生真面目です。

1年間の語学研修を受けて 国際捜査官に

富谷俊輔 (26) ■通信士補
国際捜査官(韓国語)

海上保安大学の語学研修を受け3年前に国際捜査官になりました。韓国語、ロシア語、中国語の3カ国語があるのですが、韓国語を選びました。元ター管にいたのでロシア語を勉強していたのですが、難しくて断念(笑)。それで韓国語に転向です。

元ター管の採用なので家族は北海道を出るのは想定外だったようですが、「八管に行ってもいいか？」と聞いたときは承諾してくれました。ただ、それが隠岐だと言ったときはさすがに驚いたようです。私自身は隠岐に来たかったというよりも、韓国語を活かすことのできる場所を希望していました。やはり韓国に近いので韓国語を使う頻度は高いですね。

今年1月の北朝鮮からの遭難漂流船の事案を見て、さらに行きたいと思っていました。やはりこっちは韓国語を使うケースが多いので良かったと思っています。隠岐は人が温かいし、すぐに挨拶してくれるのが嬉しいですね。

ただし、ここは緊急出港が多いというのは来る前から聞いていました。船が1隻しかないのだから何かあればすぐに呼び出される、冬は外国の船が荒天避難で入ってくる、そのときは必ずうちの船が呼ばれるので余計に忙しい、他の部署もそうですが携帯電話は手放せませんし遠出ししない。そういう意識は高い。まあ、元々島からはあまり出られないし、離れる人はいないですね(笑)

この先は警備情報課を目指しています。語学も使えないといけませんが、国際関係の捜査を自分で手がけるようにしたいですね。



「妻は今、二人目の出産で帰省中です」と語る富谷通信士補。警備情報課をめざすモチベーションは家族にあった。

Other Topics

北朝鮮の遭難漂流船を保護

平成24年1月6日、地元警察から「無人の船が漂流している」との通報を受けた隠岐海上保安署は、直ちに巡視船・航空機を発動させ調査確認を行った。船体にはハングル文字が表示され、乗船者3名と遺体1体(死因は低体温症)を確認した。この船は平成23年12月中旬頃に北朝鮮東岸の港を出港し漁を行っていたが、エンジン故障により漂流・遭難したものだ。船体は隠岐の島町西郷港に曳航。9日には乗船者3名を福岡空港まで搬送し、その後3名は中国経由で北朝鮮に引き渡され、遺体は19日に日本赤十字社に引き渡された。



地元小学生が一日船長に

平成24年7月16日の海の日に、地元の磯小学校児童2名を巡視船さんべの一日船長に任命した。これは7月16～31日に実施された海難防止活動の一環として行われたもの。一日船長となった児童が遊漁船等に海難防止を呼びかけるなど、啓発活動を行った。また安全教室として磯小学校児童15名を対象にペットボトル等を利用した簡易救助用具の説明と実演も実施した。



平成24年海上保安庁
118番イメージモデル **杉 良太郎**さんを
一日第五管区海上保安本部長に任命

平成24年7月15日、平成24年海上保安庁118番イメージモデル杉 良太郎さんを一日第五管区海上保安本部長に任命し、「皆さんに118番を覚えてもらい、海の事故を見かけたら通報していただきたい。」と呼びかけていただきました。



平成24年 海上保安庁118番イメージモデル 杉 良太郎さん



一日第五管区海上保安本部長の任命式



海上訓練展示の様子



海上訓練展示で訓練を視察する杉 良太郎さんと石指第五管区海上保安本部長(写真左)

当日は、大阪湾において巡視船艇及び神戸税関など関係機関の船舶12隻と航空機2機による「海上訓練展示」を実施しました。

海上訓練展示では約1300名の方が巡視船せつ々に乗船、訓練を見学する中、杉良太郎一日第五管区海上保安本部長には訓練の視察や職員への激励も行っていました。

杉 良太郎一日第五管区海上保安本部長の感想

「神戸港でこのような訓練を観ることができ、非常に思い出深い一日となりました。」



海上保安庁音楽隊 第19回定期演奏会のお知らせ



平成24年11月10日(土)午後2時から第19回定期演奏会を開催します。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

第19回定期演奏会 海上保安庁音楽隊



日時 平成24年**11月10日(土)**
午後1時開場 午後2時開演
場所 ゆうぼうとホール(五反田)
東京都品川区西五反田8-4-13

指揮: **稲垣征夫** (海上保安庁音楽隊技術顧問)
演奏予定曲
行進曲「海軍紳士録」
トム・ソーヤ組曲
映画「BRAVE HEARTS 海猿」より ほか

■交通案内

- JR、都営地下鉄浅草線、東急池上線
「五反田」駅下車西口から徒歩約5分
- 東急池上線「大崎広小路」駅下車徒歩約1分
※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

申し込み方法

●はがき応募 〆切:10月19日(金)(必着)

郵便はがき裏面に代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢及び同伴者(1名のみ)の氏名、年齢を記入のうえ、右の要領でお申し込み下さい。

●インターネット応募 〆切:10月19日(金)午後6時

海上保安庁ホームページよりご応募ください。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien/>

応募は、お一人様1通のみとさせていただきます。複数応募はご遠慮ください。
申込みをいただきました方の中から抽選にて当選者を決定いたします。
当選者の発表は入場整理券(全席指定)の発送をもって発表に代えさせていただきます。
未就学児童のご来場・着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りいたします。

※個人情報の取扱いについて

応募の際にご記入いただいた個人情報は、本演奏会の公募事務および入場整理券の発送のみに使用いたします。

応募はがき記入方法

郵便はがき	1008976	東京千代田区霞が関2の1の3 海上保安庁政策評価広報室
定期演奏会係		
〇〇〇〇〇〇		

※必ずご記入ください。
・郵便番号
・住所
・氏名(代表者)
・年齢
・応募のきっかけ
(例: チラシ、雑誌「〇〇」等)

※以下は、同伴者を希望する場合にのみご記入ください。
・氏名(同伴者・1名)
・年齢

往復はがきではありませんので、ご注意ください

(公財)日本海事センター補助事業 後援(財)海上保安協会
問い合わせ先: 海上保安庁政策評価広報室 03-3591-9780(平日午前9時から午後6時まで)

NEWS FLASH



環境月間における不法投棄等監視合同パトロール

6月18日・対馬海上保安部



呉市消防局潜水士との合同潜水訓練

6月20日・呉海上保安部



「お父さんの職場によろこそ！」
職場見学会

6月23日・若松海上保安部



横浜・八景島シーパラダイスで
「SAZANAMIコンサート」

7月16日・海上保安庁音楽隊



北海道小樽沖にて日露合同訓練

6月22日・第一管区海上保安本部



消防との合同救難訓練

7月13日・青森海上保安部



新潟市立高志中等教育学校2年生
の職場体験学習

7月20日・新潟航空基地



中学生の職場体験

6月26～28日・宇和島海上保安部



小学生の夏休み自由研究に協力

8月11日・横浜機動防除基地



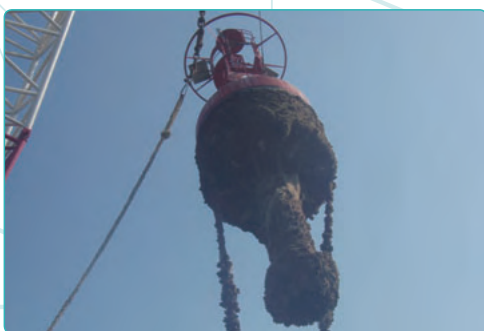
船舶火災対応訓練

7月4日・三河海上保安署



礼文島で「巡視船れぶん」の一般公開

7月28日・稚内海上保安部



灯浮標の交換作業

8月7日～9日・徳島海上保安部



地元教職員への業務研修

8月2日・中城海上保安部



青森県防災航空隊との合同訓練

6月29日・青森海上保安部



大船渡湾での体験航海で献花

8月4日・釜石海上保安部



釣掛埼灯台の一般公開

8月12日・串木野海上保安部



118番啓発オリジナルエコバッグ

8月7日・紋別海上保安部



コウノトリ但馬空港フェスティバル'12 ～兵庫県空の日イベント～

7月28日・第八管区海上保安本部



第五管区海上保安本部に 「うみまる」潜水士着任

7月27日・第五管区海上保安本部

角田岬灯台の一般公開

7月29日・新潟海上保安部



海の安全を守ることにこそ我が人生

大切な命！
自分で守る！

平成二十四年海上保安庁
二八番イメージモデル

杉 良太郎

自己救命策3つの基本

- **ライフジャケット**の常時着用!
- **連絡手段**の確保!
～防水型携帯電話、防水パックの利用～
- 海のもしものは「**118番**」



愛します! 守ります! 日本の海

海上保安庁

協賛:(財)海上保安協会

かいほジャーナル52号

平成24年9月28日発行

編集・発行:海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁

JAPAN COAST GUARD